

タンカン果実の着色に及ぼすエスレル散布の影響

秋月 国憲・岩切 接男

(鹿兒島県農業試験場)

AKIZUKI, K. and IWAKIRI, T.

Effects of Ethephon on Degreening of Tankan Fruit

奄美大島におけるタンカンの収穫は2月上旬が慣行であるが、第1表および第2表のとおり果径からみても果肉の内容からみてもすでに1月下旬には成熟している。収穫がおくれているのは果皮の着色が伴わないためである。

タンカン果実に対するエスレルの着色促進効果を検討するため、名瀬市仲勝の沖島園における6年生6本を供試し、1区1樹3反覆の乱塊法試験で、散布区(12月22日、エスレル100ppm液散布)と対照区(無散布)とを比較した。

散布後20日目の1月10日と散布後1ヵ月目の1月23日の収穫果について調査した結果は第3表のようになる。エスレル散布により着色が促進され、20日後の散布区は対照の約2倍の着色であった。

1ヵ月後になると散布区の着色指数は9.6でほとんど完全着色に近かったが、対照はやっと6.2であった。散布区は色質の点でも紅が濃く、陽光面(無散布では着色不足になりやすい)の着色もよくなる傾向が認められた。

糖、酸ともに散布区と対照区の間有意差はなかった。なお糖は1月10日はまだ8.8であったが、1月23日には10.8となり、これ以上樹上においても、その上昇は期待できない。エスレル散布によってポンカンでは若干(13.7%)の落葉があったが、タンカンは全く落葉がなく安全であった。

以上のことから、タンカン果実の成熟が早い温暖地域において、エスレル散布により1月中旬から収穫可能になり、従来の収穫期を2週間以上早めることが期待できよう。

第1表 奄美大島におけるタンカン果実の肥大調査
単位: mm

果径	調査月日			
	7月20日	8月20日	9月20日	10月20日
横 径	28.7	39.3	47.6	55.3
縦 径	28.9	38.5	45.5	51.7
	11月20日	12月20日	1月20日	2月10日
	60.8	63.7	66.4	64.8
	55.9	58.6	59.3	57.3

第2表 奄美大島におけるタンカン果実の成熟調査

	調 査 月 日			
	12月14日	1月14日	1月31日	2月10日
糖(Bx)	8.9	9.9	10.6	10.9
酸 (クエン酸%)	1.38	1.04	0.89	0.74

第3表 エスレル散布がタンカン果実の形質におよぼす影響
●1月10日収穫果

処 理	着色指数	1果平均重	糖	酸 (%)
散 布 区	6.1	125.0 ^K	8.8	0.82
対 照 区	3.0	117.3	8.9	0.85
処理間有意差	×		NS	NS

●1月23日収穫果

処 理	着色指数	1果平均重	糖	酸 (%)
散 布 区	9.6	127.1 ^K	10.8	0.75
対 照 区	6.2	115.5	10.7	0.83
処理間有意差	×		NS	NS